

## 南ア月報

(2014年7月)

在南アフリカ日本国大使館

主な出来事

### 【内政】

- 1日、NUMSAによるストライキ開始
- 11日、鉱物資源の地元利益還元に関するANCとEFF議員の意見の一致
- 16日、マンタシェANC事務局長によるマレマ批判
- 17日、マレマEFF代表のラマポーザ副大統領批判
- 22日、EFFによるハウテン州議会混乱
- 23日、予算案を巡る与野党審議
- 28日、NUMSAによるストライキ勝利宣言

### 【外交】

- ラマポーザ副大統領のスリランカ訪問
- ズマ大統領のBRICSサミット出席
- ズマ大統領によるイスラエル軍のガザ地区侵攻に対する非難
- マシヤバネ国際関係・協力大臣らによる議会予算演説

### 【経済】

- 南ア政策金利の5.5%から5.75%への引上げ
- IMFによる南アの2014年GDP成長率見通しの1.7%への引き下げ
- 貿易産業省による自動車投資スキームのこれまでの成果の発表
- EUとSADC加盟国複数国間における経済連携協定(EPA)の妥結

## 1 内政

### ●NUMSAによるストライキ開始

1日付、ビジネス・デイ1面・2面は、同日より開始された、NUMSAによるストライキの影響に対する、自動車メーカーの反応等について報じているところ、ポイントは以下のとおり。

(1)NUMSAが、もし来週末までストライキを継続するならば、自動車メーカーは翌週末から生産を中断するかもしれない。

(2)ファンゼイル南ア・トヨタ社長は、「私は自動車産業が、このストライキに備えてきたと思うが、全ては、ストライキがどのくらい継続するか次第である。」と述べた。

(3)ウィットフィールド南ア日産社長は、「(部品を)ストックするにも限界がある。我々は8日~10日程度の部品のストックはあるが、それは通常より少々多い程度である。もしストライキが来週以降も継続するならば、問題を有するかもしれない。」と述べた。

### ●鉱物資源の地元利益還元に関するANCとEFF議員の意見の一致

14日付、ビジネス・デイ3面は、「国会議員、割当制度を通して、地元への利益還元の強制について言及。」と題する記事を掲載しているところ、ポイントは以下のとおり。

(1) ANCとEFFの議員は、「戦略的鉱物資源の生産者は、全生産高の少なくとも20%の固定割合を、南ア国内における高付加価値化(local beneficiation)のために割り当てるべきであり、同割合は時と共に増加するべきである」ことで一致。

(2) 上記議員の要求は、製造品や加工品の輸出国ではなく、第一次産品輸出国としての南アの継続した立場について、政治家の間にストレスが溜まっていることを浮き彫りにしている。

(3) ラマトロディ鉱物資源大臣は「ある鉱物資源を戦略的なものと指定し、生産高の一部を利潤のために保持することを」大臣が決定する条項導入を検討中。

(4) 鉱山会社は「同法の戦略的鉱物資源の当該条項が、鉱業における投資を抑制する。」と強く反対している。

### ●マンタシェANC事務局長によるマレマ批判

17日付、プレトリア・ニュース2面は、「マンタシェANC事務局長、マレマ(EFF代表)を成長中のヒットラーと発言」と題する記事を掲載し、16日夜、マンタシェANC事務局長が、プレトリア西部のマンデラ遺産記念講演で集まったANC指導者達に対する講演内容を報じているところ、同事務局長の発言ポイントは以下のとおり。

(1) マレマは、成長中のヒットラー、与党を攻撃する戦略は、ヒットラーが始めた征服と解放という掛け声と完全に一致している。

(2) マレマのやり方に魅了されている人が多すぎる。

(3) “ボーン・フリー”という言葉は、若者に南アの歴史と関係がないとの印象を与え、誤った方向に導いており、ボーン・フリー世代が、1994年から生活を始めたとの印象を与えている。

### ●EFFマレマのラマポーザ副大統領批判

18日付、プレトリア・ニュース2面は、「“シリル(ラマポーザ副大統領)、白人資本家のガードマン”」と題する記事を掲載しているところ、ポイントは以下のとおり。

(1) マレマ代表は、ラマポーザ副大統領と鉱業界の大物実業家であるモツェペ氏について、黒人を援助するのではなく、白人資本を守っていると非難した。

(2) マレマ代表は、EFFが、国民議会議席の6%しかもっていないので、議会改革の先頭に立つのは難しいことは認めた。

(3) マレマ代表は、12月の代表選挙で選出されなくても、新代表に従うと述べた。

### ●EFFによるハウテン州議会混乱

23日付、ビジネス・デイ3面は、「EFF、議会に居座り、混乱を巻き起こす。」と題する記事を掲載しているところ、ポイントは以下のとおり。

(1) マレマ及びEFF支持者達と警察の間の一日に及ぶハウテン州議会における対峙で、ゴム弾と催涙ガスが発射され、少なくとも二人が負傷した。

(2) マレマと同支持者は、議会で混乱を招く居座りをするにより、政治的主張(シンボル・カラーの赤い衣服着用)を押し通そうとした。

(3) EFFは国民議会では赤い服装を着用することを勝ち取った。

(4) 22日、国民議会のANC執行部は、EFFに対し、今後議会進行を混乱させないように警告を発した。

### ●予算案を巡る与野党審議

24日付、プレトリア・ニュース1面は、議会における予算案を巡る与野党審議に関し、「引き締める(shape up)か、追い払う(ship out)か」と題する記事を掲載しているところ、ポイントは以下の通

り。

- (1) DAのマイマネ院内リーダーは、ズマ大統領の指導力を疑問視した。
- (2) ズマ大統領の旅費と食糧費に甚大な支出があるが、大統領と副大統領への監視機能を果たす委員会を国民議会内に設置していない。DAが同委員会設置を要望。
- (3) EFFのマレマ代表は、「ズマ大統領が、ヌカンドラに関する報告書の提出期限に間に合わせることができなかった。」と批判した。
- (4) 土地改革を巡る熱を帯びた審議で、EFFとFF+の議員が“盗人”と罵り合い、退席させられた。

### ●NUMSAによるストライキ勝利宣言

29日付、ビジネス・デイ1面は、一ヶ月に及んだNUMSAのストライキ終結について報じ、関連記事(タイトル「雇用者達は、ストライキの決着を巡り不一致。」)を掲載しているところ、ポイントは以下のとおり。

- (1) NUMSAは二桁の賃金増加率を獲得し、不当にストライキを制限することを回避して、勝利宣言した。
- (2) 各労働組合は、合意に署名する予定であるが、(合意に署名しない組合に所属する)組合員の中には、職場から閉め出される者が現れるかもしれない。
- (3) (NUMSAとSEIFSAの)合意効果を、NEASA(雇用者団体)にまで及ぼす場合、NEASAは如何なる場合でも法廷で争うつもりである。NEASAは8%以上の賃金上昇率を賄えるだけの余裕はない。
- (4) 経済を悪化させている一ヶ月に及ぶストライキの終焉は、経済への悪影響が完全に現れきっていない恐怖の中、歓迎された。
- (5) 複数の経済評論家は、「ストライキは一ヶ月以内で終了したが、第3四半期に経済成長への悪影響は現れるだろう。」と述べた。

## 2 外交

### ●ラマポーザ副大統領のスリランカ訪問

7-9日、ラマポーザ副大統領はスリランカを実務訪問し、ラージャパクサ・スリランカ大統領への表敬を含め数々の政治家と面会した。今回の訪問は、南アが真実和解委員会を通じて学んだ教訓を共有すべく、スリランカ政府及びタミル国民連合(TNA)からの招待を受けて実現された。

### ●ズマ大統領のBRICSサミット出席

ズマ大統領は、15-16日に開催される第6回BRICS首脳会合に出席するため、ブラジルのフォルタレーザを訪問した。「包括的な成長：持続可能な解決」をテーマとする本会合では、BRICSと他の新興開発途上国のインフラと持続可能な開発プロジェクトに資源を動員することを目的とした、新開発銀行(NDB)設立協定の署名がなされた。NDBの本部は上海に決まり、南アではNDBのアフリカ地域センターが設立される予定。訪問中、ズマ大統領は演説を行い、本サミットのテーマは南アの国家開発計画(NDP)ビジョン2030に共通する部分があり、NDP実施の際にBRICS諸国と連携することを楽しみにしていると述べた。

### ●ズマ大統領によるイスラエル軍のガザ地区侵攻に対する非難

20日、ズマ大統領は、ANC集会の演説中、イスラエルによるガザ地区攻撃について、パレスチナ民間人の殺害を非難した上で、イスラエル軍の即時撤退を求めた。また、イスラエルによるパレスチナ占領地への入植の継続・拡大は国際法違反であり、2国家共存のための平和努力を損ねるものであると強く抗議した上で、国連安保理事会に対し、憲章に基づき、国連の機能を十分

に果たすよう求めた。

ズマ大統領は、イスラエル・パレスチナにパハド元外務副大臣を派遣し、イスラエルによるガザ地区侵攻に対する懸念を表明する予定であり、また実務訪問賓客としてアッバース・パレスチナ大統領を招待する予定。

#### ●マシャバネ国際関係・協力大臣らによる予算演説

22日、マシャバネ国際関係・協力大臣は、予算演説において、BRICS諸国の団結力が以前より強化されたこと、アフリカ大陸通じての国益追求やAU支援における取り組み強化を始めとする今後50年間の目標(“アジェンダ63”)などについて述べた。また、日本を含む北側諸国とのパートナーシップは、南ア外交のもう一つの柱であり、今後5年間関係拡大を継続する予定だとした。ムフェケト国際関係・協力副大臣は、日・南ア関係について、“戦略的互惠関係”に格上げされた2010年に頂点に達したと述べ、本年後半に東京で開催予定の第13回日・南アパートナーシップ・フォーラムにつき言及した。

### 3 経済

#### 〈経済指標〉

#### ●鉱業・製造業指数

5月の鉱業及び製造業の不振は、第2四半期の南アの経済成長が減速することを示唆している。5月の鉱業生産は主にプラチナ関連の金属類の生産が減少したため、前年比で6.5%下落した。一方、5月の製造業の生産は前年比3.7%の下落となった。ネドバンクのエコノミストは、こうしたデータは国内経済の供給妨害により、鉱業・製造業の生産が弱まっていることを示していると述べた。

#### ●政策金利

南ア準備銀行(南ア中銀)は17日、金融政策委員会(MPC)の会合において政策金利に関する協議が行われた結果、インフレ状況を緩和するため、政策金利を現在の5.5%から5.75%へと、0.25%引き上げる決定を行った旨発表した。マーカス南ア準備銀行総裁は、インフレ率の上昇と停滞する経済の間で今回の利上げを行うことには、大きなジレンマがあったと述べた。同総裁は、今のところ南ア経済が景気後退に陥ると思われないと述べた。同銀行はインフレ率に関し、2014年平均で6.3%、2015年平均で5.9%、2016年平均で5.6%となると予想している。

#### ●インフレ

南ア統計局によると、6月のCPIは前月比で0.3%の上昇となり、前年比では6.6%の上昇となった。6.7%という市場の予想値よりも控えめな数字となったため、エコノミストの間では9月の金融政策委員会では政策金利は据え置きとなるとの見方が示されている。

#### ●経済成長

IMFは最新の世界経済見通しを更新する中で、南アフリカの2014年経済成長率見通しについて、来年に関しては2.7%を維持する一方で、本年に関しては1.7%に引き下げた。これは1年弱で3期連続の成長率の引き下げであり、各地域のストライキの影響や、国際的に弱い需要を反映している。IMFは増大する地政学上のリスクにより、石油価格が急激に上昇し、それによって南アフリカにおける燃料価格の高騰及びインフレを引き起こすと警告している。

## ●雇用

南ア統計局は労働力調査の結果を発表し、南アの失業率は2013年第4四半期の24.1%、2014年第1四半期の25.2%から、第2四半期には25.5%へと増加し、3四半期連続で増加していることが明らかになった。南ア統計局のデータによると、失業者数は第2四半期、87,000人増加し、2008年以来最も多い人数である520万人となった。職探しをあきらめた人の数を含めると、第2四半期の失業率は35.6%にもものぼる。

## 〈出来事〉

### ●貿易産業省による自動車投資スキーム

2009年7月以降2014年3月までに、貿易産業省により約62億ランド相当・195案件が自動車投資スキーム(AIS)の下で承認された。貿易産業省によると、承認された案件の投資及び投入されたインセンティブは、46,373の仕事を生み出し、9,850の雇用を支えてきた。62億ランド相当のインセンティブの内、48億ランドは相手先ブランド名製造(OEMs:Original equipment manufacturers)案件であり、13億ランド相当は自動車部品製造に関する177の案件に費やされた。AISとP-AIS(People-carrier Automotive Investment Scheme)に関する改正版ガイドラインは貿易産業省により承認された。

### ●財務大臣による財政演説

21日、ネネ財務大臣は国会で演説を行い「世界的な金利の上昇による南アの債務返済コストの増加、商品価格の下落、ランド安によるインフレの上昇など、南アは新しい状況に直面している。経済の低迷と公的債務の負荷の増大は、財政政策において持続可能性の確保の重要性を示すものである。この持続可能性を確保するために、景気循環抑制効果、債務持続可能性、世代間の公平性の3つの原則が南アの財政スタンスとして依然有効である」などと述べるとともに、財務省の今後の方針を説明した。

### ●原子力発電計画の推進に関するエネルギー大臣の発言

政府は、1兆ランドにも及ぶと推定される原子力発電所の建設計画を推し進める決意である。ピーターソン・エネルギー大臣は、予算関連演説の中で、原子力発電を拡大するという選択は、我が国の将来のエネルギーミックスにおける主要な特徴であると述べた。同大臣は、同計画には、Koebergの他に、現在では低濃縮ウランから医療用放射性同位体を製造する世界有数の地となっているPelindabaも含まれる旨述べた。同計画では、今後10年間で9.6GWに及ぶ原子力エネルギーを導入する予定である。

### ●EUとSADC加盟国複数国間における経済連携協定(EPA)

EUとSADC加盟国複数国間における経済連携協定(EPA)は最近交渉が妥結した。10年にも及ぶ厳しい交渉の末、7月15日、EUは最終的に南アフリカ、ボツワナ、レソト、ナミビア、スワジランド、モザンビークとの間で、EPAに関する交渉を妥結した。今後約8ヶ月以内に、本協定が発効されることが予想されるとともに、今後はアンゴラも同協定に加わる可能性がある。同交渉における南アフリカの主要な成果は、32の農産品目について、EU市場へのより大きなアクセスを勝ち得たことである。例えば、ワインについては、4000万リットルから1億1000万リットルまで、1年当たりの無関税割当が増加した。

#### 4 広報・文化

##### ●日本のポップカルチャーに関する講演

4日、元国費留学生であり、現在、ヴィット・ウォータースランド大学専任講師を務めるコブス・ヴァン・スターデン氏が当館及び日本研究センター(CJS)共催による講演会にて日本のポップカルチャーに関する講演を行った。

##### ●第28期JETプログラム参加者の出発

25日(金)、26日(土)に日本に向けて出発する第28期JETプログラム参加者に対する出発前オリエンテーションが当館多目的ホールで実施され、出発を翌日に控えたJET参加者に対する最後の説明と質疑応答が行われた。

引き続き行われた歓送レセプションでは、今期のJETプログラム参加者が一同に介する唯一の機会であり、JET参加者間及び元JET等との間で活発な情報交換が行われた。

今期の南アフリカからのJETプログラム参加者は24名であり、先輩JETに続いて、日本と南アフリカの友好関係の促進に貢献することが期待される。

#### 5 警備・治安

##### 邦人を被害者とする犯罪の発生件数について

(2013年1月～2014年7月)

罪種(手口)		2013年	2014年
窃盗	置引き	5件	7件
	車上ねらい	4件	4件
	侵入盗	2件	1件
	スマッシュ・アンド・グラブ	1件	0件
	自動車盗	1件	1件
	スキミング	0件	1件
強盗	路上強盗	4件	5件
	侵入強盗	2件	1件
	偽警官による強盗	2件	1件
その他		0件	1件
計		21件	22件

##### 【傾向と分析】

- 例年、邦人被害のなかでは、置引きによる被害件数が最も多く、今年(7月末日現在)は、既に昨年の被害件数(5件)を上回っている。
- 南ア国内の犯罪のなかで増加傾向にある犯罪の一つであり、かつ、邦人被害の中で置引きに次いで最も発生件数の多い犯罪が車上ねらいである。車外から見える位置(助手席、後部座席等)に貴重品等を放置していた場合のみならず、トランク内から奪取されたケース(ジャミング(車両の所有者がリモコンロックをする際に、妨害電波を発生してロックが掛からないようにする手口)によるものと思われる。)も多々報告されている。
- 偽警察官による犯罪例は、2013年までに邦人の被害例はなかったが、昨年2件、今年に入ってから1件の被害が発生している。外交団等の被害例も報告されており、南ア国内に見られる犯罪の特徴の一つといえる。

- 今年に入ってから邦人被害の発生件数は、7月末日現在において、既に昨年の発生件数(21件)を超えていることから、今後、邦人を被害者とする各種犯罪の発生件数は高い数値で推移していくものと思われる。

なお、2013年以前の邦人を被害者とする犯罪の発生件数については、2012年36件、2011年24件、2010年52件(この年は6～7月の間、当国におけるサッカーW杯が開催された。)となっている。

(了)